

2023年9月6日～7日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

深度20m以浅の水温は概ね23℃以上で、**平年より3～5℃高くなっています**。また、湾内の30mの水温も19～23℃で平年よりも3～5℃ほど高くなっています。**表層の水温が高いことから、養殖ホタテガイの稚貝分散作業や養成員の管理においては高水温や急な温度変化にさらされないよう注意が必要です。**

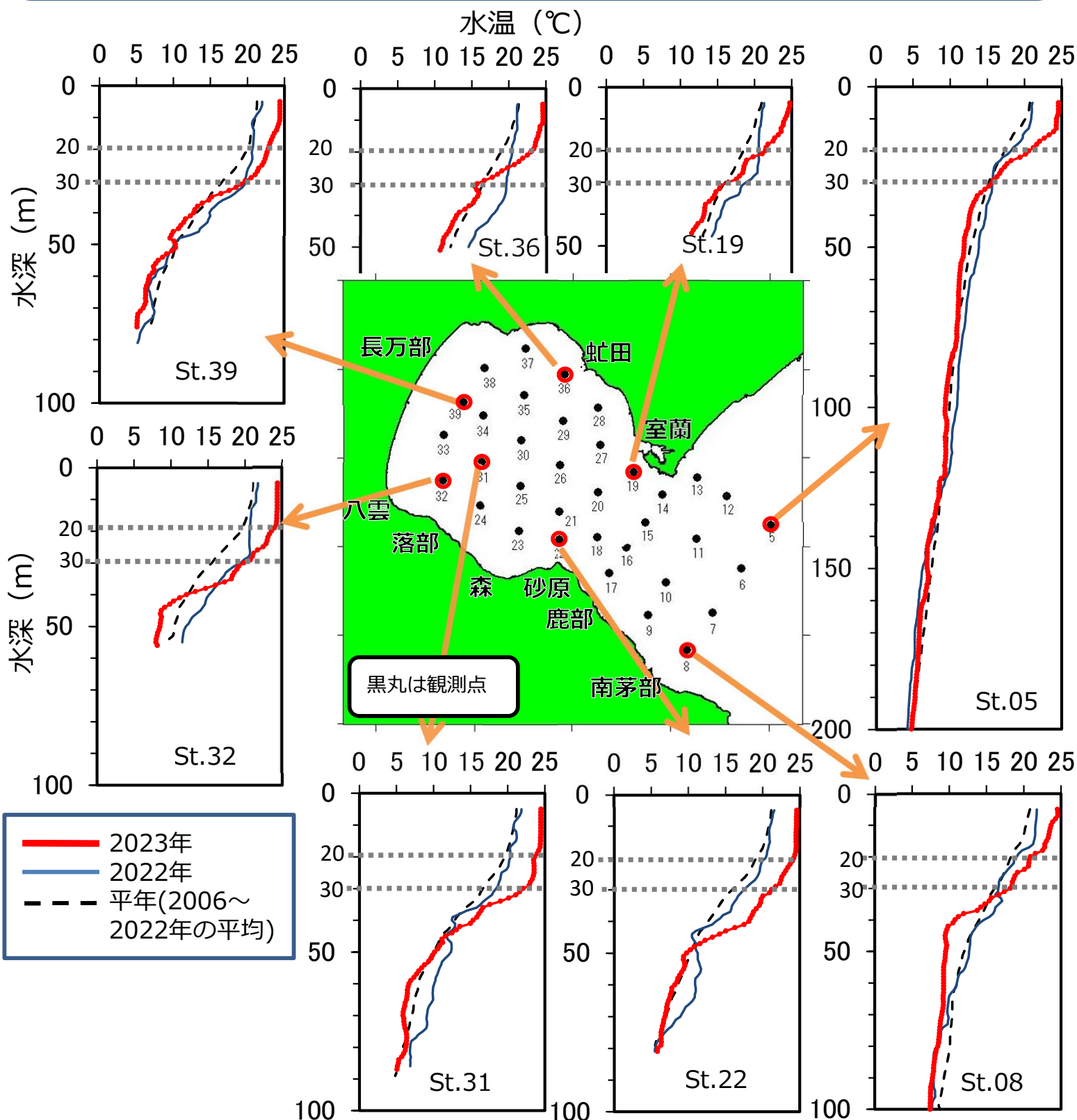


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【9月の溶存酸素および津軽暖流水の流入状況】

湾奥～湾西部海底の貧酸素状態が継続しています

- ・7・8月に湾奥～湾西部海底で見られた貧酸素水は、今回の調査でも観測されました（ST34の水深86mで1.0ml/L；図2，図4下段）。
- ・7月以降2か月間にわたり噴火湾内の水深80m以深では貧酸素状態が継続しています。
- ・一方で貧酸素の解消に必要な塩分33.6‰以上の津軽暖流水は湾口～湾東部にかけて流入しており（図3，図4中段），このまま湾内に流入すれば海底の貧酸素は解消するとみられます。

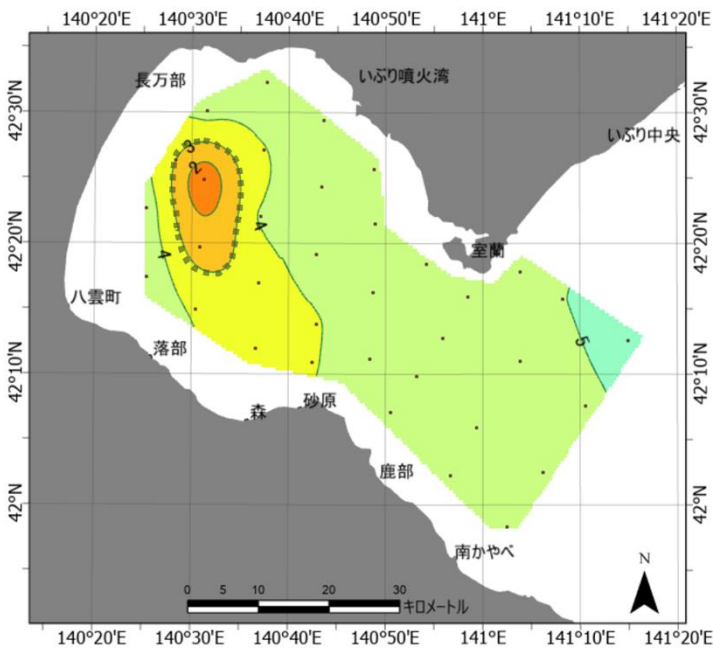
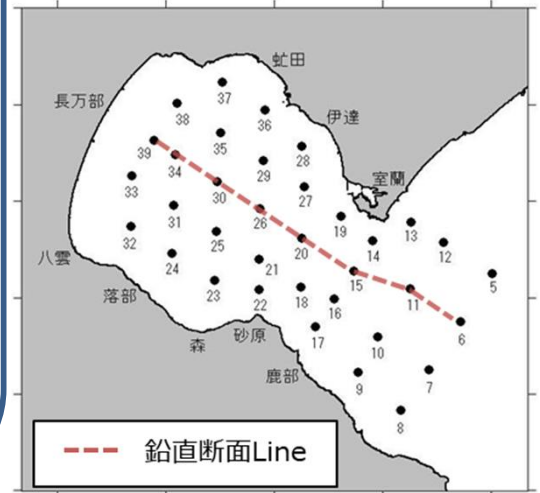


図2 海底上5mにおける溶存酸素量 (ml/L)
※3ml/L (破線) 未満は貧酸素水

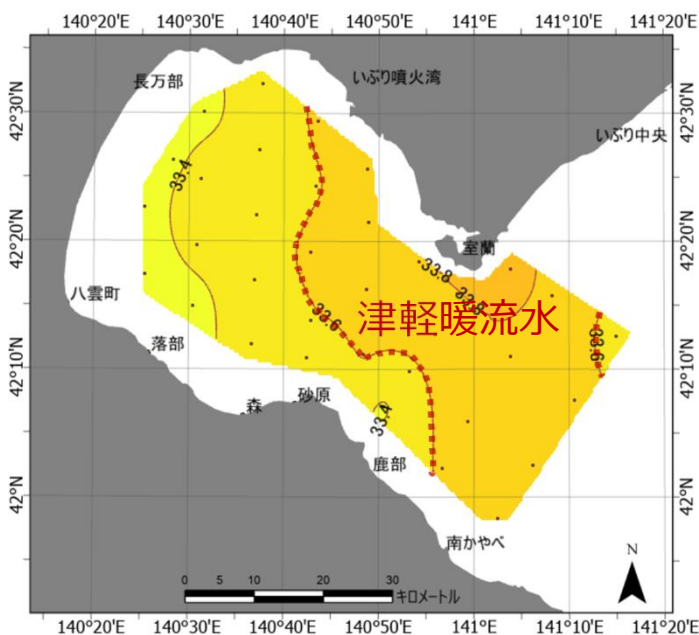


図3 海底上5mにおける塩分 (%)
※33.6‰ (破線) 以上は津軽暖流水

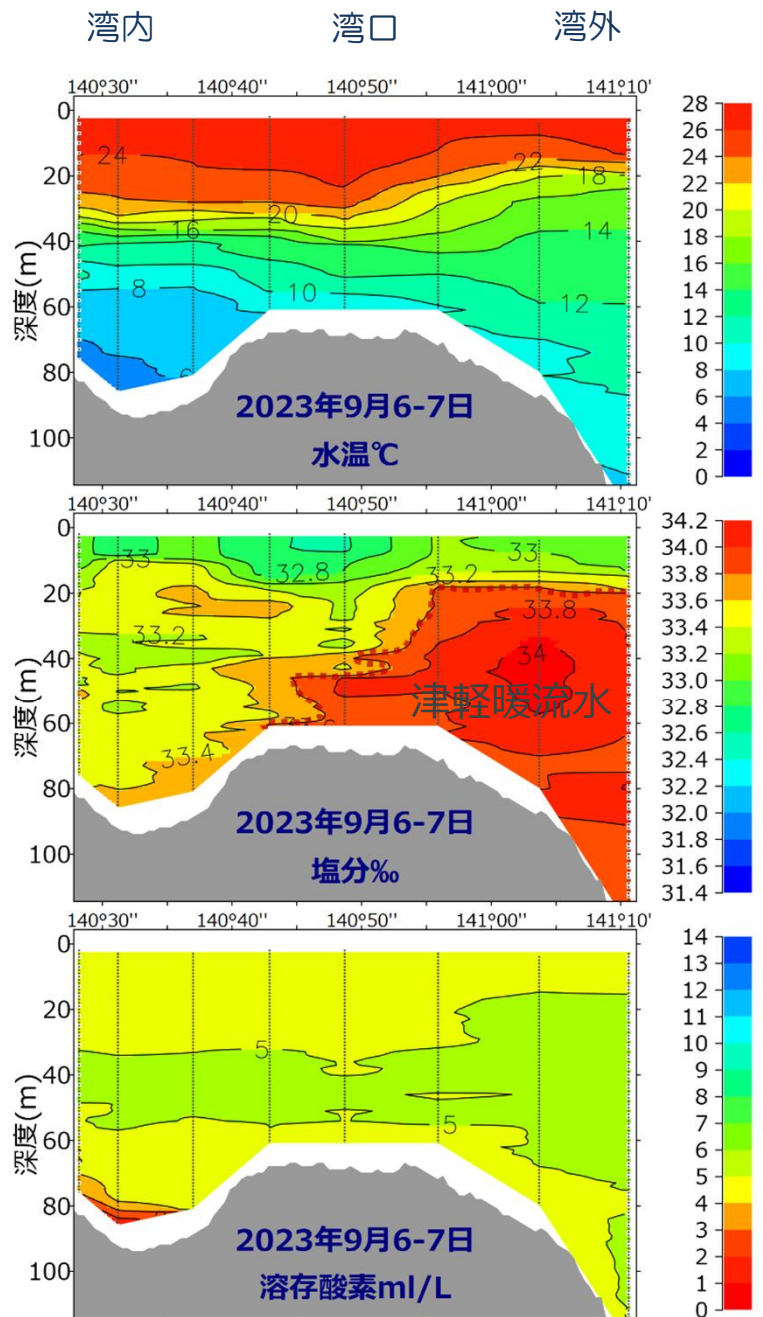


図4 水温と塩分の鉛直断面図（上段：水温，中段：塩分，下段：溶存酸素）
鉛直断面の位置は右上図の赤破線を参照，
図中の縦線は観測点